

四十四年二月十一日
約東部省認可
(毎月一回十七日發行)

THE GEIBINOTOMO

藝備之友

第貳拾貳年
第貳拾輯

目次

口繪——先帝明治天皇陛下最近御尊像……

賴三樹筆——淡州舟中作(保田八十吉氏藏)賴聿

菴筆——詠寒牡丹詩(新川峯吉氏藏)(アイトベ)

挿繪……寫真版數種……

獻筆……社說

廣島縣人の東京に於ける……
團體が必要なり……
維新當時の藝藩……(つゞき)……
余と辻將曹との關係……八チャン待ちない

廣島概論……
廣島縣人は男が女に化けつゝある……
某政事家談

素蓋鳴神社に就て……
外遊所感……(三)……
鐵道院參事
村井二郎吉

屢空居蟲干集……(一)……
前代議士
小鷹狩元凱

藝備儒學者列傳……(其三)……
西龜正夫

阿部正弘公……(其十一)……
溫故生

廣島縣人物評判記……(其二十)……
彌生山人

藝備文壇……
田口謙吉を論ず……

廣島縣人消息——雜報——新刊紹介……
帝國大學卒業生十四輯續々入會者人名十五回報告

妻とふしかのとは音ふけゆく
 寐ころんて月を眺めるしめぬ戸に
 おもはす浮かふうたの下の句
 膳さきのさかなのよさにひと徳利
 此所の仲居はあいそものなり
 戀たねに活け替ておく籠のはな
 こころみる茶の席の開ける
 右満尾

○廣島市歌

矢田部藤吉作歌

△第一章

天正年間 輝元公

廣島城を 築きしが

福島淺野と 世はかはり

王政復古の 御代に遇ひ

明治二十二の 長月に

始めて市制は 布かれ是

△第二章

千田貞曉 知事の時

經營慘憺 六星霜

宇品の港 築きしより

頓に海陸 聯絡し

中國樞要の 地となりて

輸送は日々に 増しに是

△第三章

日清役の 策源地

大瀛遠く 進められ

勝を千里に 決したる

大本營の 跡は此處

金鷄の塔の 影高く

千載不磨の 紀念なり

△第四章

日露の役の 其折も

第五師團の 武夫は

全國師團の 戦友と

北清原野の 勇戦に

たけび狂ひし 荒鷲を

懲して功 たてにけり

△第五章

嗚呼賑はしき 廣島市

人口十有 五萬人

家居は鱗と 重なりて

商工業者も 數多し

中國無比の 大都會

嗚呼賑はしき 廣島市